

1 — 2	受験番号シール貼付欄

## 第 2 問 答案用紙< 1 > (会 計 学)

### 問題 1

#### 問 1

ア	イ	ウ	エ
17,820 万円	17,100 万円	1,110 万円	1,722 万円
オ	カ		
2,520 万円	2,850 万円		

#### 問 2

キ	ク	ケ	コ
60 万円	60 万円	498 万円	558 万円

#### 問 3

サ	シ	ス	セ
1,218 万円	108 万円	606 万円	156 万円

#### 問 4

<p>I の経常収支黒字額は 720 であるが、II の経常収支赤字額は 1,602 であり、合計すると 882 の赤字額となっている。</p> <p>その赤字額を III の財務収支黒字額 990 でまかなって、なんとか IV の差引収支黒字額 108 を確保している。</p> <p>したがって、資金繰りは悪化しているといえる。</p>

#### 問 5

<p>資金運用表(2)の固定資金の資金の使途である建物の購入 1,110 は、資金の源泉合計 1,218 で調達されているので、X社において当てはまる。</p> <p>他方、運転資金明細表によると、運転資金の使途合計 558 は資金の源泉小計 498 で調達されず、一部資金運用表(1)の固定資金 60 で調達されているので、X社において当てはまらない。</p>

2 2	受験番号シール貼付欄

## 第 2 問 答案用紙<2> (会 計 学)

### 問題 2

#### 問 1

ア	イ	ウ	エ
5,600	2,100	9,600	14,560
オ	カ	キ	
70,400	157.6	1.5	

#### 問 2

ク	ケ	コ	サ
1,516	3,032	17,566	142.7

#### 問 3

問 1 で計算された部品 P と Q の単位原価は、製造間接費の総額を直接作業時間という単一の配賦基準で配賦して計算されているため、直接作業時間が多い部品 P の方が単位原価が高いが、問 2 で計算された部品 P と Q の単位原価は、活動ごとのコスト・ドライバーで活動原価を配賦して計算しており、その中でも特に段取作業時間についての利用が多い部品 Q の方が単位原価が高くなっている。

#### 問 4

A 社は、問 1 で求めた製品単価により生産計画及び利益計画を行っているが、競合他社が、活動基準原価計算(問 2 の計算方法)により、生産計画及び利益計画を行っているとする、問 3 により A 社の部品 P の販売価格は相対的に高く、部品 Q の販売価格は相対的に低いため、結果的に部品 P の販売価額を値下げしても計画販売量を下回り、反対に部品 Q の販売価額を値上げしても計画販売量を上回るようになって、売上高は伸びても、利益は下回ったのである。

#### 問 5

段取作業の効率化のために段取時間を短縮する画期的な作業方法の開発に成功したとしても、段取作業を行う専従作業員 12 名を雇用している限り段取費は減少しないので、専従作業員の配置転換等により段取作業を行う専従作業員を減らす必要がある。

評点